

教育の理念

仏教学部は、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神」に則って教育を行う中心的学部であり、それらを体系的に多角的視野から学び、仏教による人間教育を行う。それらをその後の多様な人生の中に自ら活かし、広く社会に発信することができる人材を養成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

多様な価値観を有する未知の領域・環境でも他者と積極的に理解協力しあいながら、目前の課題解決に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を主体的に展望し、そのための具体的経験を積み重ねることを通じて社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

幅広く修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけることで、社会生活においても、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学修評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点								
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力							◎	○	○
	DP2	幅広い教養と専門知識	◎	◎							
	DP3	課題解決力、表現力			◎	◎	◎				
	DP4	多様な他者を尊重し、協働する力							○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏教学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。

全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築く。

専門教育科目では、釈尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うこと

により、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。

7) 専門教育科目は、各学科における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。

仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。

8) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

1) 宗教教育科目「仏教と人間」は、全学共通のシラバスに基づいて講義が行われるが、同時に仏教学・禅学を学ぶ上での基礎的知識を修得する導入教育科目としても位置づける。

1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる両祖による宗典を学ぶとともに坐禅を必修科目として実習する。

2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれの学科において、さらに専門的な自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。

4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。

- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学 共通 科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める	
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。	
専門 教育 科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目		◎	○	○	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。	
	演習科目	○		◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

仏教学部は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 仏教学部の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・仏教や禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準として各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。
- ・高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲がある。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身についている。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

仏教学部のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる思考力と文章力、大学生活に適応できるコミュニケーション能力を有し、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

仏教学部では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：文章を読解し思考し、論理的に表現することができること。古文・漢文の基礎を身につけること。
- ・外国語：聞く、話す、読む、書く、の基礎的な英語を中心とした外国語4技能を身につけること。
- ・地理歴史・公民：日本や世界各地の歴史、宗教、文化や社会についての基礎知識を身につけ知的好奇心をもつこと。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・予習復習を基本とした高校までの学習習慣が維持できるよう、大学から与えられ

た課題や、苦手科目の復習などに取り組むこと。

- ・宗教や思想哲学に限定せず、文学や新聞など、幅広い分野の書物を読む習慣を身につけ、読解力、思考力、表現力を磨くこと。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
	S方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通 テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	中期	筆記試験		◎	○		
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	自己推薦選抜（特性評価型）	出願書類	○	◎		○	
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	

							的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		日本留学試験（成績）		◎			
		小論文等		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等		◎	○		
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
社会人編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、学び直しを希望する社会人や多様な経験を有する社会人を受け入れることを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。	
	小論文	○	◎	◎	◎		
	面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		

教育の理念

禅学科の研究と教育の目的は、建学の理念の「曹洞宗立宗の精神」を中心に、禅の思想と実践を専門的に学ぶことにある。そのために、インドに始まり中国・日本へと伝承された禅の思想と実践について、禅宗の史書や語録などの禅籍を読みといて幅広く学び、また道元禅師・瑩山禅師が示された正伝の仏法を追究し、それらを自らの人生と現代社会に生かしていくことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

禅学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

多様な価値観を有する未知の領域・環境でも他者と積極的に理解協力しあいながら、目前の課題解決に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を主体的に展望し、そのための具体的経験を積み重ねることを通じて社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

幅広く体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけることで、社会生活においても、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学修評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	D P 1	建学の理念を実践する力						◎	○	○
	D P 2	幅広い教養と専門知識	◎	◎						
	D P 3	課題解決力、表現力			◎	◎	◎			
	D P 4	多様な他者を尊重し、協働する力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

禅学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。

全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築く。

専門教育科目では、釈尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文

化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。

7) 専門教育科目は、各学科における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。

仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。

8) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

1) 宗教教育科目「仏教と人間」は、全学共通のシラバスに基づいて講義が行われるが、同時に仏教学・禅学を学ぶ上での基礎的知識を修得する導入教育科目としても位置づける。

1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる両祖による宗典を学ぶとともに坐禅を必修科目として実習する。

2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。禅学科に進んだ者は、禅に関する自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。

4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ

知識の理解を深め、単位の実質化を図る。

5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。

6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学 共通 科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める	
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。	
専門 教育 科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目		◎	○	○	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。	
	演習科目	○		◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

禅学科は、駒澤大学及び仏教学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 禅学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準に各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲がある。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

禅学科では、広い視野に立ちながら禅に関する多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身についている。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

禅学科のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる文章力、大学生活に適応できる思考力、コミュニケーション能力を有して、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

世界的に関心を持たれている禅や仏教の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：文章を読解し思考し、論理的に表現することができること。古文・漢文の基礎を身につけること。
- ・外国語：聞く、話す、読む、書く、の基礎的な英語を中心とした外国語4技能を身につけること。
- ・地理歴史・公民：日本や世界各地の歴史、宗教、文化や社会についての基礎知識を身につけ知的好奇心をもつこと。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・予習復習を基本とした高校までの学習習慣が維持できるよう、大学から与えられた課題や、苦手科目の復習などに取り組むこと。

- ・ 宗教や思想哲学に限定せず、文学や新聞など、幅広い分野の書物を読む習慣を身につけ、読解力、思考力、表現力を磨くこと。

教育の理念

仏教学科の研究と教育の目的は、建学の理念の「仏教の教義」を中心に、広い立場から専門的に学ぶことにある。そのために、東アジアの広範な地域に広まった仏教の歴史と多様な文化を理解し、様々な言葉で書かれた仏典を読みといて、仏教の普遍的な真理を追究し、それらを自らの人生と現代社会に生かしていくことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

仏教学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を实践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

多様な価値観を有する未知の領域・環境でも他者と積極的に理解協力しあいながら、目の前の課題解決に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を主体的に展望し、そのための具体的経験を積み重ねることを通じて社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

幅広く修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけることで、社会生活においても、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学修評価の観点のマトリクス表

			学習評価の観点									
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性		
◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている												
卒業認定・学位授与の方針	D P 1	建学の理念を実践する力							◎	○	○	
	D P 2	幅広い教養と専門知識	◎	◎								
	D P 3	課題解決力、表現力			◎	◎	◎					
	D P 4	多様な他者を尊重し、協働する力							○	◎	◎	

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏教学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。

全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築く。

専門教育科目では、釈尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うこと

により、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。

7) 専門教育科目は、各学科における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。

仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。

8) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

1) 宗教教育科目「仏教と人間」は、全学共通のシラバスに基づいて講義が行われるが、同時に仏教学・禅学を学ぶ上での基礎的知識を修得する導入教育科目としても位置づける。

1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる両祖による宗典を学ぶとともに坐禅を必修科目として実習する。

2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。仏教学科に進んだ者は、仏教に関する自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。

4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。

- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学 共通 科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める	
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。	
専門 教育 科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目		◎	○	○	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。	
	演習科目	○		◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

仏教学科は、駒澤大学及び仏教学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 仏教学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

仏教を学ぶ強い意欲を持っていることを基準に各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。

高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲がある。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

仏教学科では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

仏教学科のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる文章力、大学生活に適応できる思考力、コミュニケーション能力を有して、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：文章を読解し思考し、論理的に表現することができること。古文・漢文の基礎を身につけること。
- ・外国語：聞く、話す、読む、書く、の基礎的な英語を中心とした外国語4技能を身につけること。
- ・地理歴史・公民：日本や世界各地の歴史、宗教、文化や社会についての基礎知識を身につけ知的好奇心をもつこと。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・予習復習を基本とした高校までの学習習慣が維持できるよう、大学から与えられ

た課題や、苦手科目の復習などに取り組むこと。

- ・ 宗教や思想哲学に限定せず、文学や新聞など、幅広い分野の書物を読む習慣を身につけ、読解力、思考力、表現力を磨くこと。